

平成27年度

東京藝術大学美術学部先端芸術表現科

入学者選抜試験 第一次試験問題 素描

■問題

鏡の中にいる「もう一人の自分」を描いてみよう。

■補足説明

用紙は縦位置で使用しなさい。

■試験時間 10:30～16:00

昼食時間 12:00～13:00（昼食時間に試験を続けてもよい）

■配布物

問題用紙、  
鏡、木炭紙大画用紙（イラストボード）1枚、カルトン、  
クリップ2個、下書き用紙（A4）3枚、画びょう5個

■注意

使用できるのは、黒鉛筆素描に必要な用具一式。  
他の受験生に迷惑のかかる行為を禁止する。

平成27年度

東京藝術大学美術学部先端芸術表現科

入学者選抜試験 第一次試験問題 小論文

問題1

課題文の傍線部①、著者が「ずるい」と思った理由を500字以内で説明しなさい。  
解答は解答用紙の問1-①に記述しなさい。

また、著者が「ずるい」と述べていることについて、自分の考えを500字以内で述べなさい。

解答は解答用紙の問1-②に記述しなさい。

問題2

自画像のリアリズムについて自撮り写真と比較しながら、自分の考えを400字以上500字以内で述べなさい。

解答は解答用紙の問2に記述しなさい。

※「自撮り写真」とは、撮影者のカメラを用いて、撮影者自身を被写体として撮影する方法。

問題3

あなたにとって「自画像」とは何か、述べなさい。

解答は解答用紙の問3に750字～1000字で記述しなさい。

試験時間 10:30～16:00

昼食時間 12:00～13:00 (昼食時間に試験を続けてもよい)

平成 27 年 東京藝術大学美術学部先端芸術表現科  
入学者選抜試験 総合実技 1 日目 (3 月 2 日)

出題

問題 1

自分の仮面をつくりなさい。

※総合実技 2 日目で、各自制作した仮面を装着してもらいます。

※配布された材料を使用しなさい。(配布された材料は全て使用しなくてもよい)

問題 2

解答用紙に仮面のタイトルをつけなさい。

問題 3

解答用紙に仮面を装着した時のつぶやきを 100 字以内で書きなさい。

※総合実技 2 日目で係の者が読み上げます。

【配布物】

問題用紙	1 枚 (この用紙)
解答用紙	1 枚
補足資料	1 枚
カッターマット	1 枚

卓上鏡	1 台
ペンチ	
針 (小 1 本・大 1 本)	
A4 コピー紙	5 枚 (スケッチ等に使用)

【材料】

ダンボール	1 枚 (90cm×90cm)
半紙	20 枚
白ボール厚紙	2 枚
グレー厚紙	2 枚
工作用紙	5 枚
バルサ板材	8cm×90cm (2mm 厚 1 枚、3mm 厚 1 枚)
竹ひご 90cm	10 本
針金 (1.2mm 1 巻)	
折り紙	1 セット

マスキングテープ	1 個
白ガムテープ	1 個
綿	
糸 1 巻	
タコ糸 1 巻	
布	1 枚 (90cm×90cm)
紙粘土	3 個
のり	1 個
ゴム紐	2 m

試験時間：10 時～15 時 30 分

昼食時間：12 時～13 時 (昼食時間に解答を続けてもよい)

作品提出：本日 15 時 30 分

※注意事項：試験終了後、この問題用紙を回収します。

①

一次試験の内容を思い出してみましょう。

小論文→「自画像について」

素描→「鏡の中の自分について」

②

仮面について考えてみましょう。

自分にとっての仮面とは何か。

③

どのような役割の仮面をつくるか考えてみましょう。

自分を表現する仮面

内面の自分を表現する仮面

自分でないものを表現する仮面など…。

④

自分の仮面のアイデアを言葉にしたり、スケッチしたりしてみましょう。

⑤

制作するにあたり2つのことを考えましょう。

①自分の頭に装着できる機能構造をしっかりとつくること。

②表現したい造形を自由につくること。

#### 「仮面」 ウィキペディアより抜粋

日本語における「仮面」とは、顔を隠し正体を分からなくするために用いられる（覆面）、あるいは儀式や演劇や祭礼などの時に役になりきるために使われる。顔を覆って隠すことはさまざまな意味合いがある。他人からはわからないということのみならず、装着するマスクがかたどっている神・精霊（実在架空を問わず）等そのものに人格が変化する（神格が宿る）とも信じられ、古くから宗教的儀式・儀礼またはそれにおける舞踏、あるいは演劇などにおいて用いられてきた。こうした性格のものは、日本においては一般的にはマスクといわれず、仮面と称されることが多い。そうした仮面舞踏（儀礼）は、紀元前4000年ごろにすでに行われていたという。これは当時に描かれたアフリカの壁画から推測されている。日本における最古の仮面は縄文時代の土面であるという。日本における伝統芸能である能（能楽）などに用いる仮面（能面）等は、わざわざ仮面とは称さず、単に面と呼ぶ（専門的には「おもて」と呼ぶ）。